

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
(伊東市マンション連絡会)

日時：令和8年7月23日（木）午前9時30分～午前10時30分

場所：市役所2階中会議室

- ① マンション管理組合を町内自治会と同様の組織として位置付けることについての提案
- ② 伊東市における移住促進に向けたリゾートマンション活用の提案
- ③ 伊東市コミュニティバス導入計画案

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
(伊東市マンション連絡会)

意 見
マンション管理組合を町内自治会と同様の組織として位置付けることについて の提案ー「伊東市マンションコミュニティ協議会」に向けてー マンションが置かれている閉鎖的な環境により、地域とのかかわりが薄いため、各マンションが抱える問題をそれぞれが独自に取り組んでいる状況にあります。 例：高齢者の独居、ごみ収集、防災体制、行政情報の入手手段、マンション独自の課題（管理・維持）など その問題を行政と共に解決に向けて話し合っていくために、各マンションの理事長をメンバーとしてマンションコミュニティ協議会を作り、その下にマンション管理組合を連ねる組織を作っていきたい。 行政として、マンションコミュニティというものを認識してもらい、町内会・自治会同様の行政サービスを受けるとともに、マンション同士の交流やマンション理事長を組織としたマンションコミュニティ協議会の発足に支援をいただきたい。
回 答
マンション管理組合は主にマンションやその敷地内の設備の維持管理のための組織であり、地域住民の親睦・交流を図り、快適な地域づくりのために活動する自治会とは目的が異なりますが、一定の地域活動を行うマンション管理組合を自治会とみなすことは可能かと思えます。 しかしながら、当市の町内会・自治会運営の課題として、加入世帯の継続的な低下により、町内会・自治会の地域コミュニティの維持が大きな課題となっています。 マンション管理組合においても、個々の自治会として、安定的に継続して運営していくことは皆さんかなりの負担になることが予想されますので、個々のマンションが独立してコミュニティを形成していただくより、地域とのかかわりを持っていただくことが、より早くマンションコミュニティに関する問題が解決していくのではないかと考えています。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
(伊東市マンション連絡会)

マンション独自の課題もありますので、マンション同士の交流も必要かと思いますが、町内会・自治会と共通の課題を持つときは、一緒に活動していくことで、地域特有の情報を共有できるかと思います。

防災体制としては、平時から積極的に自主防災会とのかかわりを持っておくことが必要かと考えます。

マンション居住者が、既存コミュニティとかかわりを持ち、町内会・自治会と一緒に活動できる場を持てるように（地域清掃活動への参加等）、行政として、地域行政連絡調整協議会と相談しながら検討してまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
(伊東市マンション連絡会)

意 見
伊東市における移住促進に向けたリゾートマンション活用の提案 伊東市のリゾートマンションは、別荘としてまたは、都会からの退職者の移住先として選ばれてきたことにより、伊東市の移住者の主力は高齢者となっているのが現状です。近年リモートワークが普及したことにより、地方移住への関心が高まっているため、伊東市でも移住者のニーズを正確に捉えることが必要です。伊東市の抱える問題を解決していくためには、現役世代が移住したくなるようなまちであるべきだと考えます。今後は高齢者の移住先としてではなく、現役世代の移住先として選ばれるまちづくりをしていかなければならないことを認識し、これからを担う子育て世帯に対する支援体制を整えていくことが重要だと考えます。 ・教育体制 ・子育て支援 ・医療体制 ・インフラなど これらと、伊東市の元々持っているまちの魅力と移住者の受け入れ先としてのマンションを合わせれば、多くの世代から移住先として選ばれる伊東市になっていくと考えます。
回 答
これまでどおり、伊東市を別荘として、退職後の移住先として選んでいただいた方を歓迎していきながら、今後、伊東市のまちづくりを担っていく現役世代にも選ばれる活気あるまちづくりを目指していきます。 そのためには、重点政策でも掲げております、子ども、子育て、教育の充実だけでなく、働いていただける環境、都会からも通いやすい環境を同時に作っていき、伊東市に住み続けていただけるようなインフラ面の整備も必要だと考えます。 また、元々伊東が持っている魅力をさらに磨き上げ、選ばれるまちとしての政策を講じてまいります。

「かずや市長と語る市政懇談会」意見及び回答
(伊東市マンション連絡会)

意 見
伊東市コミュニティバス導入計画案ー伊東市の多元性をふまえた圏域内・圏域間交通網ー
市内における公共交通の利便性の低さは市民の多くが認めるところであり、例年の市民満足度調査でも顕著に現れているとおり、市民の移動に関する不満は高い現状にあります。 市民の日常生活における移動ニーズやその実態から積み上げていくような交通政策への転換が必要だと考えます。 同じ伊東市内においても、市街地と伊豆高原などの郊外地域、子育て世代や高齢者、観光客など、交通ニーズは様々である中、それらに応える交通手段としてコミュニティバスの導入について、実現には課題も多いと考えますが、試験的にでも推進していくことを提案いたします。
回 答
市民の日常生活の移動については、交通空白地域などの様々な課題がある中で、伊東市地域公共交通活性化協議会において、コミュニティバスの運行も含め、検討を重ねてまいりました。 現在、令和6年度、令和7年度において実施された「伊東ミニバス AnjinGo」の実証運行の結果を踏まえ、ドライバー不足、コスト削減の課題を解消しながら、令和8年度は新たな運行地区の設定、公共ライドシェアとしての試行を組み込み、令和9年度中の地域への実装を見据え準備している状況です。 コミュニティバスを望む声があることも十分承知しておりますが、まずは交通空白地域を解消するために、取り組むことが出来る手法で交通手段を確保していき、今後も引き続きより良い方法を模索してまいりたいと考えております。持続可能な移動サービスを維持するためにも、ぜひ皆様もご利用いただき、また改めてご意見等をいただければ幸いです。